

---

○議長（藤井要君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前10時45分）

---

◇ 高柳孝博君

○議長（藤井要君） 一般質問を続けます。

通告順位2番、高柳孝博君。

（7番 高柳孝博君 登壇）

○7番（高柳孝博君） 私は、今回2回目の議員生活であります。前回は防災を中心に活動してまいりましたが、近頃の少子高齢化に伴う、人口減少の課題が顕著になってくるにつれて、現状を打開して見通しの明るい町づくりをしていく思いが大きくなり、議会に送っていただきました。公約としては、明るい町づくり、少子高齢化対策。2つ目は仕事創出。3つ目は先端技術を取り入れた教育・観光の充実であります。

今回は人口減少対策、仕事創生について、後継者育成についてであります。1つ目の人口減少対策につきましては、子育て世代への支援策の成果と更なる向上策をどう考えるか、2つ目は定住化支援策の成果と今後の対応をどう考えるかであります。

大きな項目の2つ目は、仕事創生についてですが、一つは農林水産観光業の一体化推進による経済の活性化をどう拡大していくか、桜葉産業と観光業との一体化をどう考えるか、農林水産観光業の活性化について産官学の取り組みやAI・・・人工知能であります。ICTいわゆる情報通信技術、ドローンなどの導入についてどう考えるか。プロジェクトを作っの検討の計画はあるか。

3つ目は、後継者育成についてであります。賀茂地域教育振興方針の目標達成に向けての工程の現在の進捗と今後の計画はどのようなものか。最後にグローバル人材の育成による産業創出、地域の魅力化、持続可能化をどう考えるか。今後の計画はどのようなものか、でございます。グローバル人材というのは、グローバルな視点経験を元にして、地域のことを考えていくようなことでございます。以上、詳細につきましては質問席でいたします。

（町長 長嶋精一君 登壇）

○町長（長嶋精一君） 高柳議員の質問に答えたいと思います。大きな1つ目、人口減少対策についてのうちの1、子育て世代への支援策の成果と更なる向上策をどう考えるかという質問でございます。

回答します。子育て世代への支援につきましては、町総合計画の6本の柱の一つである「健やか・安心に暮らせる福祉のまちづくり」に位置付けており、現在、町ではさまざまな事業に取り組んでいるところです。

主なものとしては、妊娠されたときに支給する「出産準備支援祝い品」事業、出産後は「出産祝い金支給事業」や「産後ケア事業」、お子様の小中学校入学時などの節目に支給する「子育て支援祝い品事業」や「医療費助成事業」、その他「児童館事業」など町独自に行っているものも含め、数多くの子育て支援事業を行っているところです。

これらの支援策の成果については、保護者の皆さまから「大変助かっている」との声を聞いているため、子育て家庭の抱える不安や経済的な負担の軽減に役立っているものと考えております。今後の支援策につきましては、10月から始まる幼児教育・保育の無償化など子育て支援を取り巻く社会状況を見ながら、真に必要な子育て支援策を検討してまいりたいと思います。

人口減少の2つ目でございます。定住化支援対策と今後の対応をどう考えるかと・・・回答します。町では、これまで、空き家バンク制度の創設や移住交流ガイドブックの作成、移住交流説明会への参加、田舎暮らし応援ツアーなどを通じて松崎町への移住定住を促進する事業を進めてまいりました。

こうした中、事業を進めるにあたっては、何よりも官民連携が重要であることから、平成29年度より移住定住事業を幅広く展開している、町内の「さとづくり総合研究所」に委託しております。

平成30年度移住定住促進事業の実績は、移住相談件数103件、4回の移住体験ツアーの実施で33名の参加者、首都圏などでの移住相談会に4回参加し、移住者6名の実績がありました。特に移住相談件数は、前年度の59件を大幅に上回り、きめ細かな相談体制が図られていると考えております。

移住定住を促進するうえでは、町だけの対応ではなく、民間団体など多くの関係者が連携を図り、移住受け入れ体制を構築していくことが効果的であると考えておりますので、今後も一層の連携を深め移住定住に向け、取り組んでまいります。

次、仕事創生についてでございます。その内の一つ、農林水産観光業の一体化推進による経済の活性化をどう拡充していくかということ。それからもう一つ、桜葉産業と観光業との一体化をどう考えるかというご質問でございます。回答します。

農林水産観光業の一体化による経済活性化は私の選挙公約でもあり、この具現化として道の駅「花の三聖苑」への直売所建設の実施に踏み込みましたが、理解が得られず現在の状況とな

っていることはご承知のことと思います。

ご質問の桜葉産業と観光との一体化についてですが、例えばいちご栽培と観光との一体化というのであれば観光農園になりますが、桜葉は菓子などの原材料であり簡単に結びつくものではなく、現在は後継者及び生産量をどのように増やすか調整しているところです。具体的には、かつて約 300 万束以上生産されていた桜葉が約 50 万束に減少した現状を回復するべく休耕農地を桜畑に転用する調整や生産体制の見直しなどを取り組んでおり、現時点ではそれらを中心に事業を実施していますが、将来、松崎高校付近で展開している桜葉圃場整備が完了したときには、近くにある和菓子店などと協力して桜葉畑見学や「まるけ」「採取」体験を企画するなどが考えられます。

小さな2つ目、農林水産観光業の活性化について、産学官の取り組みや、A I ・ I C T ・ドローンなどの導入についてどう考えるか、プロジェクトを作ったの検討の計画はあるのかという質問でございます。高柳議員は非常に新技術について詳しいわけございまして、私も、是非、桜葉等についてですね、新技術が取り入れるものであれば、是非、お教えいただいて、出来ることからやってまいりたいなという風に思っています。

農林水産業者と企業や大学などと協力し、アイデアや技術を組み合わせた先端技術を使い、生産性や品質の向上を目指すスマート農業が全国で普及し始めました。例えば、静岡県内でもドローンを使った農薬散布が、水稻を中心として行われていたものが、ジャガイモにも広がりを見せています。また、茶業農家でも情報通信技術（ICT）を使い、気温や湿度、日射照度などを管理するシステムを導入する地域もあります。こうしたスマート農業は、現在、大規模農家を対象として実施しており、当町のような小規模なほ場の中山間地域では、まだまだコストが高く導入が難しいのが現状であります。

しかしながら、様々な国の補助金等も創設されていることから、農業者や県、農協とも相談をしながら検討できればと考えています。

3つ目、後継者育成についてでございます。そのうちの1つ、賀茂地域教育振興方針の目標達成に向けての工程の現在の進捗と、今後の計画はどのようなものかというご質問でございます。回答します。

賀茂地域教育振興方針は、平成 28 年度から平成 31 年度までの4年間の計画で、その基本目標は、「ふるさとに誇り、愛着を持ち、地域の発展に貢献できる人づくり」、「学校・家庭・地域が連携し、地域全体で賀茂の子を育てる環境づくり」、「学校教育、社会教育の魅力化により教育で人を呼び込む地域づくり」となっており、賀茂1市5町で、理想の教育を実現する

ための目標を定め、達成に向けて地域が一体となって施策を推進しています。

具体的には、1. 幼小中高の一体となった学校教育、2. 大学・大学院等との連携、3. 既存ストックの有効活用、4. 人的ネットワーク及び施設間連携の構築となります。

松崎町における評価・成果としましては、「賀茂地域教育振興方針」により、基本目標達成に向け地域が一体となって施策が推進されている。「賀茂地域教育振興センター」の開所により、指導主事の共同設置がされ、授業研究や研修などの指導を通して教職員の資質の向上が図られている。大学との連携により、学生のフィールドワーク活動や共同作業活動を通じて、地域課題の解決が図られることが期待されるとともに、中学校では大学生と交流することにより、学力の付け方、勉強方法を理解し、進路に対する具体的な夢や希望を語れるようになるなど、効果がでてきている。幼児教育アドバイザーの設置により、園と小学校の交流が進むとともに、研修を通して意欲の高揚や関心が高まってきている。という良い評価、成果がある一方、高等学校の魅力化は各地域協議会で協議されていますが、全体としての協議は進んでいない状況です。

これらのことを踏まえ、今後も県のより一層の支援をいただきながら、連携による対応が望ましいものは広域で事業を展開していきたいと思えます。

後継者育成の2つ目でございます。グローバル人材育成による、産業創出・地域の魅力化・持続可能化をどう考えるか、今後の計画はどのようなものかという質問でございます。

回答いたします。2020年に東京オリンピックを控え、インバウンドやグローバルな市場をターゲットに、地域での産業創出や魅力化を図ることは、過疎化、少子高齢化に悩む伊豆南部に最も必要なことと感じております。グローバル人材の育成には、相応の育成環境が必要となります。当町ではALTの設置や大学との連携の中で、人材育成の環境づくりを実践しておりますし、コワーキングスペース「ふれあいとふや。」でのITを活用した域外とのネットワークづくりや、起業のための講座づくりも検討していきます。

2015年の国連において全会一致で採択されたSDGs（エスディージーズ）、いわゆる「持続可能な開発目標」を推進していくことにより、地元産業や人材育成の持続可能化を図ることを目指します。今後の具体的な計画は、関係各部署及び大学や企業等との連携を進めながら検討していきたいと思えます。

以上で、高柳議員からの質問に回答いたしました。

○7番（高柳孝博君） 一問一答でお願いいたします。

○議長（藤井 要君） 許可します。

○7番（高柳孝博君） まず、人口減少対策についてでございますが、子育て支援策について

のは、町長がよく言われる満足度の向上はもちろん、町・人・仕事創生人口ビジョン総合戦略の中でも、子育て教育の環境作り、そういったことで挙げられています。しかし、それが充分でしょうか。ある町では、第一子が出産したときに5万円、第二子が出産したときに50万円、第三子が出産したときに100万円、かつ毎月6歳まで1万円。第四子以上が出産時に200万円、毎月1万円支給するというので、四子までで499万円、それで第五子になるとまた200万円と1万円がつくわけですけど、ここは人口が非常に少ない町でありまして、人口が減ってしまいますとですね、出産数から人口を増やしていくのはいかに、大変かというふうに思います。ここは、村なんですけど、この中に村人の切なる望みというのが伝わって来るような思いがします。松崎町の現状というのは、今、お話いただいたわけですが、何人受けているかという・細かい回答は、またいただきたいと思うんですけど、本当に今のままでいいのか、もう一度検証してみる必要があると思いますが、その点はいかがでしょうか。

○統括課長（高木和彦君） 松崎町でおこなっています子育て支援事業については、先ほど、細かいことを知りたいということでしたので、それは健康福祉課長あと教育委員会の方から何らかの形でご報告します。

ただ、全国ですとね、いろいろな子育て支援事業をやっておりますけれど、良い所、金額の大きい所は、そういうことをですね、あちらがやっている、じゃあうちも、こちらがやっている、うちもやれば良いんですけど、財政的なこととかいろいろな要因がございます。そこから総合して考えていきたいというふうに考えています。

ただ、松崎町はどうかという話で良くありますけれども、他の・少なくとも賀茂郡の中でですね、松崎町の子育て支援策というのは、決して劣ったものではないという自負があります。

○健康福祉課長（新田徳彦君） ただいま、統括課長からも、決して松崎町が賀茂郡下でも劣っていないというような回答がございましたけれど、まさしくですね、静岡県内の自治体と比べましてもですね、例えば出産祝い金も35市町全てやっているわけではございません。我々の方の出産祝い金の方も平成30年度から上げさしてもらいましたけれど、これもかなり高いレベルのところに位置しているのかなと、それ以外にも、たとえば子ども・子育て支援事業ですとか、他の市町ではやっていない事業なんかもやっています。だからといって、お子様が増えてくるのかというのはあるかもしれないですけど、少なくとも松崎町が子育て支援に力を入れているよということは大いに発揮できるのかなと思います。

ただ、私の方でちょっと気になっているのはですね、以前、新聞で読んだことがあるんですけども、例えば所得の少ないご家庭については、こういった支援でお金とかをもらうこ

とによって経済的な負担っていうのは助かるわけなんです。ただ一方で、所得の高い方はこの無償化になることによってその分を・・・例えば子供の塾通いですとかお稽古事に回すとか、子供同士の格差にもつながるといことが書いてありました。ですから我々といたしましても、他の町に負けないように、ただ単にお金をばらまくのではなくてですね、そういった背景的なものを踏まえながらですね、本当に子育て支援で大切なものを見定めながらですね、支援していくっていうのが大事ではないかと思っているところでございます。

○7番（高柳孝博君） 様々な支援をしているのは、広報等でもよく出されておりますし、それは承知しているつもりでおります。一方ですね、サポートを受ける側だけではなくて、支援する側も減っていくということが予想されるわけですけれど、そのあたり、例えば子育て支援のコミュニティー作り、子育ての方はいろんな不安を抱えたりしていますけれど、町によっては、そういった相談窓口もあるようなことをおしゃっていたような気がするんですけど、コミュニティーを作って、お互いに悩みを打ち明けるとか、そういったこともやられているようです。そのような考えは、現在、どのように考えておられるでしょうか。

○健康福祉課長（新田徳彦君） 現在ですね、町内には子育てボランティアというのが、お母さん方が中心となって活動されている団体が1団体ございます。また、児童館ではですね、特に午前中、子育て中のお母さん方がいらっしゃいまして、そこで情報交換の場にもなっているのではないかなと思います。なにかと子育て中についてはですね、いろいろなストレスそういったものがあると思います。うちの方の保健師も自宅訪問をしたりですね、あるいは、子育てに関する悩みなんかですと24時間1年中無料の電話相談事業なんかもやっておりますので、これは年4回発行している「すこやかだより」の1番冒頭にも載っておりますので、いろんなツールを活用しながらですね、子育て支援をサポートしていきたいなと思っております。

○7番（高柳孝博君） 人が減っていくということは、結局サポートの方の人も減っていくということですので、そのあたりも考慮していただけたらと思います。また、支援をしているというのはわかるんですけど、それ以上に人口減少ストップという観点からみると、この町に来て、子育てしたくなるような取り組みっていうのも、ひとつ必要ではないかと思いません。これは財源の問題もあって、なんでもできるってわけではないと思いますが、ある町ではですね、こんな良い子育て環境があるので転入してきて下さいっていうことを町自体がPRしています。条件をつけてPRしています。我が町に来ていただくと、こんなことが受けられますよってことを、ホームページ上で載せてPRしています。そういったことも必要か

と思いますが、そのためには、松崎町で来ていただく魅力というのをやはり作らないと、先ほどの小さな村の話ではないですけど、本当にこの町に来て、子育てしたいっていう気持ちになれるかどうか、そこをやっぱり検討していく必要があるのではなかと思います。そのあたり、PRの関係と2つお願いします。

○町長（長嶋精一君） 私は、何回も言っていることですが、松崎町は年を取って車の運転ができなくなると買い物に行けなくなる、病院にも行けなくなる。しかも、その病院は少ないと、大きな問題を抱えているわけですね。その問題を私は、少しでも解決していくのが町長の役割だと思っています。その役割の一端として、買い物支援等タクシーを実行したわけですけど、移住者に来て下さいと言ってもですね、例えば移住者が仮に数ヶ月住んだら、ちょっと待てよと、この町は年をとるとどうなるんだろうというような危惧をもたれると思います。そうすると、最初は調子の良いことをいってもですね、帰ってしまうということが考えられるんですよね。移住者の対象ばかりではなくて、ここに住んでね、一生懸命頑張っておられた高齢者の方々も、やはり75歳になったから車の運転は返納して下さいと、今、大きな問題になっていますね。こういうのがですね、拍車が掛かると思うんです、事故が多いということ、高齢者の事故が多いということで。従ってですね、私の方としては、その両面から考えて、このような返納をしても大丈夫ですよと、買い物できますよと、病院にも行けますよというような事を・・・。

○議長（藤井 要君） 町長に申し上げます。子育てですから。

○町長（長嶋精一君） 時々、こういうふうな脱線をしますから・・・、しかしながら、私の考えていることは、これは、子育て支援にも関わってくるわけですよ。そういうふうに変えながら・・・グローバルとさっき言いましたけれど、高柳さんもおっしゃいました。グローバルに捉えて、ローカルに頑張っていくと着眼対極・着手消極ということと同義語だと思いますから、私はそれをやっていきたいと思っています。

○7番（高柳孝博君） 時間がなくなってしまう、次にいきたいと思うんですが、2つ目は、定住化支援ですけど、総合戦略なんかのKPI、いわゆる重点業務の観光評価指数、その指数を見てもみますと、転入者の増加数というのは年間255人。それに対して平成27年度が180人、平成28年度は132人、平成29年度は160人と全て下回っている状況になっていると思いますが、PDCAを回すときの現状の原因と対策というのを1年ごとにローリングはかけていると思うんですが、そのあたりはどのように取り組んできたかでございます。

○企画観光課長（高橋良延君） 総合戦略のKPIに確かに転入者及び転出者、いわゆる人口

減少のためには転出を抑制する、もう一つは転入を促進するということでございます。これを元に松崎町でも施策をこうじてまいりました。この評価につきましては、日本で最も美しい村推進委員会という、産官学勤労その関係者が集まった委員会がでございます。ここでPKI、いわゆる総合戦略の年度ごとの評価を行いまして、じゃあ今後どういった・今、課題があって、どうしていくのかというようなことについて、ここで協議をしておるところでございます。

- 7番（高柳孝博君） 現状、なぜ、できなかったという・たぶん、現状を把握して、対策を考えて※※※※※※※がPDCA思うんですけど、なかなか難しいことで、策を打っても、なかなか効いてこないというのが現状じゃないかと思えますけれど、それにしても、どうしても人口を抑制しようとする、そここのところのアクションをしっかり打たないと、止まらなると考えられますので、今後のアクションに期待したいと思います。

それから、過疎地がみんな非常に苦労しているところだと、全国でたぶんうまくいってないのだから、人口が減っているということなので、松崎町だけが策がまずいとかそういうことではないと思えますけれど、松崎町としても、やっぱりローリングの時になぜだろうということをもう少し考えて、施策を打ってみるということが必要かと思えます。そして、定住者についてはやっぱり、衣食住の提供がないとなかなか定住できない。いわゆる、衣食住といますと着る物は別としても、職っていうのはやっぱり仕事ですね、仕事が提供されないと、なかなか居着かない。それから住っていうのは、例えば空き屋バンクの話も出ていたけれど、空き屋をちゃんと提供できるようにするとか、そういったようなことが必要ではないかと思えますけれど、KPIのアクションの中で、やはりそこを考えたアクションを打つ必要があると思えます。そのあたりの考えはいかがでしょうか。

- 企画観光課長（高橋良延君） 当然、人口減少対策・その受け入れですね、我々のそのためには、仕事づくりということでは当然あるわけではございます。そういった中でも、KPIにも、この戦略による起業者を増やしたいというPKI目標があるわけです。いわゆる年間2件程、新しい起業者を増やして、それ以外に会社勤めということもあるかもしれないですけども、起業者を増やしていきたい。そのために何をしたかという、起業者支援制度を昨年度、創設いたしました。200万円の助成をいたします。それを町として応援いたしますという起業、そういったことを立ち上げて、昨年は1件ほどそういった事例がありましたけれども、これも地道にやっていきたいということ。

それから、住み・空き屋ですね、やはり、住むところがないと、というところが一方で

ありますので、これは空き屋バンク、当然、今、進めています。それともう一つは、やはり助成制度を設けたいということで、昨年度、空き屋の改修に対する事業補助を創設いたしました。これは、空き家の所有者のオーナーさんも使えますし、移住する方も使えるという、両方のメリットがありますのでね、そういったことで移住する方に、極力負担があまり掛からないような形で、ここも環境整備をしているところでございます。

○7番（高柳孝博君） 非常に難しい問題だとは思いますが、是非チャレンジしていただきたいと思います。それから、仕事創生についてですけど、今の若干定住者の方にも絡むわけですけど、町長が平成31年度の施政方針の中で農林水産業の一体化推進による経済活性化というのが述べられておまして、この一体化というのは、最近ですね、メディアに産業を見に来る・・産業を見に来るといのは、生産するところもそうですし、製造するところもそうですし、製品も見に来るといのがよくメディアの中に載って来ます。そういう意味では、製品を売るためではなくて、産業そのものが観光と繋がるよというふうを考えるわけです。そういう意味では、今の昔ながらの・・先ほどの小さい規模でという話がありましたけれど、本当にやろうとしたら、やはり自動化とか省力化とか、今までにないものを目指して進めていくと、それは一つの観光の目玉になりうるのではないかと思うわけですが、そのあたりいかがでしょうか。

○町長（長嶋精一君） おっしゃるとおりだと思います。先ほどいいましたけれど、イチゴ農家は観光とすぐ一体化できるわけですね、イメージも沸きます。私は、桜葉についてね、申し上げたいのは、まるけ作業というのを、例えばお年寄りが熱心にやっていると、それも観光客にとっては、伝統的な仕事の一つになるのではないかと思います。それと桜葉の漬けの状況、昔の小泉商店さんのところにありますけれどね。それと、指川に桜葉の丘というところがあると思いますけれど、見事な景観であります。そういったところをですね、やっぱ観光として使っていきたいなと思っています。

それでまた、ちょっと大きな事をいいますが、かつて堺屋太一さんがルネッサンスというのは、人口減少時代に生まれたと言っております。イタリアでは150年間の間に半分人口が減ったということらしいです。私は、松崎にルネッサンスとはいいませんけれど、文芸復興と訳されております。再生・復活ができる地域ではないかと思っています。人口が減少しているということを認めるというわけではないんですけど、日本全体が減っております。静岡県も減っております。そういう中で、じゃあ生きていくにはどうしたら良いか、やっぱ、ここにある歴史・文化、先人たちが残して下さった素晴らしい物があるわけです。それ

に磨きをかけるといつも言葉ではそう言うんですが、本当に磨きをかけていくわけです。桜葉もそうですし、あるいはなまこ壁、私は日本一のなまこ壁だと思っていますが、なまこ壁をバックに一番似合うのは、女性の着物姿、浴衣姿です。決して若い人ばかりとは言いません、女性は似合うわけです。それを活かして去年は長八祭りのときに第一回目をやったわけですが、今年も大々的にそれを進めていきたいなと思います。そういう身近にあるもので、見落としている物を、やはり、これ産業というか、観光に使ってまいりたいなとこのように思います。以上です。

- 7番（高柳孝博君） 伝統的な産業を守っていくことによって、それが観光になっているというのがありますけれど、今後、特産としていくためにはですね、やはりもう少し人手もなくなっていくことを考えますと、自動化であるとか、省力化のためにいろいろ新技術を使っていくということも必要ではないかと考えています。例えば、ある場所ではですね、ハウスを使って温度管理を使って、施肥管理、病害虫管理をハウスの中でやって、しかもそれを大量に作ることによって、特産としてなっていくという例もあります。桜の葉っぱがハウスの中で作れるかどうかというのはまだやって見ないといけないんですけど、少なくとも、今のまるけとか桜の葉っぱを選定なんていうのは、それこそAIを使えば当然できると思いますし、人手がなくなったときに、ロボットっていうと大げさに聞こえますけれど、いわゆる自動化ですよ、そういったようなことができてくると人手がなくなっても安定が望めるのではないかとこのように考えるわけです。

それで、生産管理にしましても、ICTを使うことにより・・・、まあ、インフォメーション・・・情報のテクノロジーですけど、それを使うことによって効率化が図れると。そういうことをしないと、今後、拡大していくというのは危ないのではないのかなと危惧するところがあるわけです。

また、観光業についても、MAASというシステムがいま、伊豆半島の中で実験が起ころうとしています。東伊豆の方をターゲットにしてやるんですけど、やがて西伊豆もターゲットにすると。これは、車とか交通の施設と、それからいろんな観光の施設を一本にして、例えば海外の人が見たときに、交通から飲食のあるところ、泊まる場所全てがわかるようなアプリケーションを使うわけです。そういったことも始まろうとしています。そういったことも少し考えなければいけないでしょうし、それから、第10次産業っていうのもうたわれてますよね、町・人・仕事の中ですかね・・・、そういった意味では、10次産業なんてのも、1次2次3次、その次の4次のところでやはりICTっていうのを使うと考えて来ています

ので、そういったことをもう少し進めていく必要があるかなと思います。ただ、それを進めていくっていうのは・・開発するのは1年2年でできるものじゃありませんので、やはりプロジェクトみたいなものを使って、なおかつ、産官学が一丸になるとそういったようなことが必要かと思います。そういったような考えはありますでしょうか。

○統括課長（高木和彦君） 桜葉についてのご提案ありがとうございます。私どものハウス栽培ですとか、いろいろ実施しておりました。やはり、ハウス栽培の場合ですね、病虫害を防ぐことはあるんですけど、やはり面積的なことで採算っていう点でなかなか難しいという欠点があります。また、サイズについてですね、機械で分けれることはできないかとか、そういうことがあったものですから、豊橋の方の工業大学なんかに行きまして、他の関係の試作品なんかも視察行ったわけですけど、なかなか現実に難しいっていうようなところがございます。ただ、諦めたわけではございません。もっと簡単なことですね、仕分けができるとか・・、今のまるけっていうのは200年前にできた製法です。ここらを変えていくっていうのも一つの※※※※になるんじゃないかなと思います。ただ、高柳議員がおっしゃったように消毒等はですね、今の常態ですとなかなか機械でやるのは難しいんですけど、間隔を少し開けて栽培すると、機械でできるというような提案もありましたので、その辺はこれから圃場を広げていく中で検討はしてみたいと思っています。

○企画観光課長（高橋良延君） 高柳議員から一つ、MAASという言葉が出ました。エムエーエーエスMAASということだと思いますけれど、これは既に、昨年から実証実験を行っております。松崎でも現にMAASを活用できる環境はございます。いわゆる、MAASは先ほどいいましたように、スマホ1台あれば、いわゆる伊豆全域の移動手段、それが予約できて検索できて、あるいは切符を購入できてお支払いもできるという全てそれが包括してできるという、大きな交通革命みたいなものですけど、これは既に実証実験でやっておりますのでね、その問題点を今、検証しながら、今年度も引き続きやることになっておりますのでそこはご理解ください。

○7番（高柳孝博君） 時間もありますので、次に行きたいと思うんですけど、是非、これからの技術を使っていくというのは一つは観光の目玉にもなりうるので、是非検討していただきたいと思います。ここで諦めてしまうと次がなくなってしまうので、是非、開発っていうのは非常に掛かるんですけども、開発しなければ今までとなんら変わらないわけですので、今まで同じで観光が発展していくのであれば特に問題ありませんけれど、更に新たな分野を求めるとなると、今までのものを少し変えただけでは、観光の目玉にはなり得

ない、大幅に変えなければならない、大改革をしなければならない、そういう意味ではいろんな技術を使うってことは考えられると思います。例えば、ハウスを使うときにこの町の温泉が若干供給量がまだあるという場合に、そういったものを使ってコストダウンすると・・・まだ色んなことで検討する必要があると思います。まず、桜の葉っぱのデータというのがまず出来ているかどうか、じゃあ葉っぱのどれくらいの大きさもので、幅がどれくらいで、虫があるかないかとか、そういったものも一つのデータを今後とっていく必要があると思います。データを元にして、全て選定するときには・・・※※※※※※将来自動化になるとしても、データが必要になると思いますので、そのあたりもしっかりとって行く必要があると思います。そのあたりいかがでしょうか。

○統括課長（高木和彦君）　あまり詳しいことは言えませんが、なかなか、その辺が非常に難しいところですね、私どもも、またあとの質問でもお答えしますが、桜葉振興室立ち上げてですね、病気の発生ですとか、いろいろなことで苦勞している段階でございます。これからご意見として伺いましたので、議会議員ともいろいろご相談しながら進めたいと思っております。

○7番（高柳孝博君）　時間も迫ってきたので、次に行きたいと思います。次に、後継者育成についてでございますが、仕事の方は、今の※※※※※※を使っていただくことを少し検討していただいて、それを拡大していくということで期待しております。あと、後継者育成についてですけど、賀茂地区のビジョンの中で、先ほどありました、町長がまさに進めていた目標達成に向けた工程表ってのがあるわけですけど、これは各賀茂の市町が参加するかどうかということを目指しているわけですが、先ほどいいました幼保小中高の一体となった学校教育、あるいは大学、大学院との連携、既存ストックの有効活用、人材ネットワーク及び施設関連連携の構築っていうの、このあたりは松崎町は参加されているのかどうかお願いいたします。

○教育長（佐藤みつほ君）　高柳さん、いつも教育に関していろいろありがとうございます。

今、ご質問がありましたけれど、賀茂教育振興センターっていうところができまして、指導主事がそのところから、幼児教育アドバイザーっていう要請がありまして、それから3年経ちます。ちょうど昨日、幼稚園の総会がございまして、その中で幼稚園教育というのが凄く基本になっているということが国の方からあり、そして、今度は県、そして今は市町が中心になりながら各幼稚園、保育園ともいろいろな事業とか検証を進めております。

そうした中で、やはり、幼小中高一環として引き続いて教育を行っていくということが、

凄く大事だということで、全て賀茂の教育振興センターの方はもとより、そういう会議のなかでは※※※ながら話し合っております。やはり、ソフト面で幼児教育を大事にすることが小学校に繋がる。小学校からまた中学、そして中学から高校。私たちは、今いろいろなところで、合併がやはり少子化の関係で進められています。その中で松崎の場合は、合併して幼稚園は3年目、それから小学校が9年目、それから中学校が51年目、高校があと少しで100周年というふうになっております。そういう中で安定した話し合いをしたりとか、例えば、先だって起きた大変な川崎の事件がありますと、教育委員会を中心にしながら、いろいろな方々が、朝、運動で指導してくれたり、帰りのときには青パトが出たり、それからいろいろなところで、もうほんとに積極的に参加していただいているような状況。そういう中で、やっぱり幼小中高と一体になっていくと・・・、そこに、なっているのが松崎の特長であります。

しかし、少子化に伴い、それをもっとより向上するためには、大学との連携、ここももちろん松崎は参加しております。静岡大学、静岡常葉学園大学、それから玉川大学、いろいろなところと交流していますけれども、先だって松崎中学校では、今年度はどのような進路指導を大学生と一緒にやろうか、そしてどのようにして松高・・・存続を考えているようだけれど、そのところへと引き継いでいこうかというような話し合いがあり、引き続き市町で参加しております。

○7番（高柳孝博君） 延長をお願いいたします。

○議長（藤井 要君） 5分間延長いたします。

○7番（高柳孝博君） 教育というのは、非常に大事だというふうに考えます。また、皆さん一生懸命にやられているっていうのはよくわかります。それから、この後継者を作るっていうこと非常に大事で、人口減少をストップする上で重要なポイントではないかというふうに考えております。この、賀茂地区教育振興方針というのがあるわけで、その中で先進的な取り組みっていうのは紹介されているわけですが、その中に育てたい人材として、今までは仕事がないから帰れないって言っていたのを、仕事を作りて帰りたいというふうにしていきたい。これが凄く、この言葉が私に響いたんですけど、以前ですね、ある校長先生に地域に役立てる人を育てたいということを先生がおっしゃっていたんですけど、その時、私は、今考えると恥ずかしいんですけど「皆、外に出て行ってしまおうんですね。」って話をしたんですよ。皆、校長先生の心っていうのは、本当にそれを踏みにじるようなことだったんじゃないかと思えますけれど、まさに仕事を作りて帰りたいって人を作るってことが、

これから非常に大事ではないかと思えます。一方で、児童生徒数が減っていくわけですので、これの問題も非常に危惧されていて、課題として挙げていますので、今後対応していただけたらと思うわけです。一つは、今の地域で事業・産業、人材作りを今どのように考えているか、教育長さん。

○教育長（佐藤みつほ君） 今、幼小中高の話をさせていただきましたけれど、12年目になりますが高高一貫教育というのがあります、その中に西豆学という学習があります。前半、後半に分かれて、西豆のいろいろなところに行って、みんなで西豆の西伊豆町、松崎町はもちろんですけど、賀茂地域集まって、そして高校生も先生方もいろいろなところに行きながら、町にある職業団体、あるいは町ならではのものを研究していただいて、そこも少し、10年は経っていますので少しずつ改善しているんですけど、また、新しい空気を呼び起こそうということで、局長とも相談しながら、静大生とか、玉川大生とか、そういう人たちを使って、来ていただいて、そして効果を出していこうかというように考えています。一度は出るけれども、やはり根付いた教育として松崎に帰ってくる・・・そういうことはやはり積み重ねがもの凄く大切だと思いますけれど、今年の松崎高校の実績としましては、いろいろな国立大学、県立大学、あるいは私大でも有名な私大とか・・・、そういうところに文武両道ということ掲げ、それから地域と一体となろうという防災教育や防犯教育、そういうものを徹底し、とにかく地域の皆とがんばろうって・・・この間も建久寺の区長さん方からお話がありましたけれど、ちょっとボヤがありましたけれど、そのときに高校生がちょっと通りましたと、そうしたときに普段やっている消火活動の※※※についてとか、これとこれ、こういうものがありますということで、※※※表彰ということで表彰していただきましたけれど、そのように学校で今行っていることが地域でどのように反映していくか、それをそういうふうにしなければならないというシステムを組まなければならないのが、こちらの責任だと思いますので、そういったところを徹底してやろうと思っています。

○7番（高柳孝博君） 時間になったのでまとめたいと思います。まあ理想的なビジョンとのギャップっていうのは課題になると思いますよね。その課題をどうしていくかですが、やはりプランがないところにはD oがないわけですので、計画をしっかりと立てるということと、その後のチェックとアクションをしっかりとやっていくということを期待しているわけですけど、実施するのも難しいことだし、人も財源も物も小さくなっていく町の中で、そういったなかで私は米百俵の精神をまた思い出すわけですけど、今、目の前にある百俵を我慢して、学校を建てて町が繁栄していったというようなお話なんですけれど、そういったことも

考えて、今後チャレンジしていくことを期待して終わりたいと思います。

○議長（藤井 要君） 以上で高柳孝博君の一般質問を終わります。

午後1時まで休憩いたします。

（午前11時39分）

---